福岡大学法科大学院
令和３年度Ｃ日程小論文試験
出題趣旨・採点基準

【出題趣旨】

設問１
全文を読んだ上で筆者の主張を理解し、記述する。
読解力、分析力、表現力を判定する。

設問２
筆者の主張を読んだ上で、自身の見解を記述する。
判断力、分析力、思考力、表現力を判定する。

【採点基準】

設問１
カジノによるギャンブル依存症の増加自体は認めるが、現存するギャンブルであるパチンコ等の方がより深刻であるという筆者の主張を正確に読み取っているか、という点を中心に判定する。

設問２
結論が明確か、納得できる理由付けがなされているか、反対説に対する反論がなされているか、という点を中心に判定する。

【模範答案例】

設問１
筆者は、カジノの導入によりギャンブル依存症が増加すること自体は危惧している。しかし、わが国へのカジノの導入によりギャンブル依存症が劇的に増加するという危惧は有していない。すなわち、わが国はすでにギャンブル依存症大国になっており、この上カジノを導入したとしても、その増加比率はわずかなものであると考えている。なぜなら、ギャンブル依存症の原因としては「アクセスのしやさ」という社会的要因が大きく、現存するパチンコやパチスロなどが日常生活圏内に存在するのに対して、カジノは、それからは比較的離れた場所にあり、非日常的なイメージがあるからである。

設問 2

わが国へのカジノの導入についてのメリットとデメリットを考慮した上で、私はカジノの導入に賛成する。

カジノ導入のメリットとしては、①経済効果、②雇用の創出、③観光業の活性化が考えられ、一方、デメリットとしては、①治安の悪化、②マネーロンダリング、③ギャンブル依存症の増加が考えられる。

デメリットのうち、ギャンブル依存症の増加については、筆者が述べているように、すでに存在する依存症の数が大幅に増加するとは考えられない。また、治安の悪化やマネーロンダリングについては立地規制や法規制により対応可能であると思われる。

メリットについては、予測によって、相当な確率で実現する可能性があるとするものと、あまり効果は期待できないとするものがある。しかし、経済政策には本来的に不確実性が伴うものであり、可能性が認められるのであれば実行する価値はあると考える。

以上から、わが国にもカジノを導入すべきと考える。

評価段階

＜基本とする評価段階＞

基本とする評価段階		設問１（30 点）	設問２（30 点）
S	（きわめて優れている）	27～28 点以上	27～28 点以上
A	（優れている）	25 点	25 点
B+	（平均的レベルをやや上回る）	20 点	20 点
B	**（平均的レベルである）**	**15 点**	**15 点**
B -	（平均的レベルをやや下回る）	12～13 点	12～13 点
C	（やや劣る）	7～8 点	7～8 点
D	（劣る）	2～3 点	2～3 点
F	（入学を認めることに問題がある）	0 点	0 点